

増したりとの事にて、其總額三百五十萬噸に達せしなるへく、其中百六十萬噸は本年渡しなり。

其他の製鋼 南スタッフオード州の印付鋼桿は表面の唱値十三磅十志なり、されと何れの製造所にて此値にて註文に應ずるものなく大抵一磅のプレミアムを要求す、北部英蘭にては鐵鋼完成品の取引は政府註文品の爲に壓せられ、普通品の取引殆と不可能の有様なり。各種金物の市價左の如し。

鐵鑛

材料種別	一九一六年 一月廿七日	一九一六年 一月二十日	一九一五年 一月廿八日
------	----------------	----------------	----------------

銑鐵

ルビオ(ミツドルスボロー)	四〇、〇片	三八、〇片	三〇、〇片
三號鑄物銑(ミツドルスボロー)	八二、六	八一、〇	五七、九
現金渡し	八一、九	八〇、七	五七、七
スコツチ現金渡し(グラス)	八七、〇	八六、四	六三、六
ベセマー雜物(西海岸)	一二七、六	一二七、六	九七、六
冷風鑄(サウス、スタッフ)	一六〇、〇	一六〇、〇	一三〇、〇
物銑(オードシヤイヤ)			

製品

印付(サウス、スタッフ)	一三、一〇、〇片	一三、一〇、〇片	九、〇、〇片
鋼桿(オードシヤイヤ)	一三、七、六	一三、七、六	七、一七、六
普通鋼	一〇、一七、六	一〇、一七、六	六、一七、六
鋼軌條	二六、五、〇	二六、五、〇	二二、〇、〇
亞鉛引鐵板	一一、一、六	一一、二、六	八、五、〇
造船用山形鋼(ミツドル)	一三、一五、〇	一三、一五、〇	八、〇、〇
山形鋼(グラスゴ)	一一、二〇、〇	一一、二〇、〇	八、一〇、〇
造船用鐵板(ミツドル)	一一、二〇、〇	一一、二〇、〇	八、一〇、〇
同上(グラスゴ)	一一、二〇、〇	一一、二〇、〇	八、一〇、〇

汽鑛用鐵板(グラスゴ)	一三、五、〇	一三、五、〇	八、五、〇
鐵力板(ベセマー鋼サウ)	一、五、六、〇	一、五、六、〇	一、三、九、〇
鐵力板(スウエールス)	一、六、〇、〇	一、六、〇、〇	一、四、〇、〇

○内國金物商況 (二月中)

鐵 十二月中暴騰して後一月に入り反動安を現はし、二月にもなれば徐々回復して昂騰すへきかと思はれしに、一旦崩落せし鐵價は容易に立直らず、殊に此月に入り昨年七月頃との約定に係る安値契約物の稍纏まりたる入荷ありンチー、オブ、ペキン號の二千噸、西海丸の千五百噸を始め二百噸前後の入荷少なからず總額五六千噸に達したるを以て急に安人氣を誘ひ月末には終に標準物十貫目八圓七八十錢の聲を聞きたり、尤も英米共に輸入困難なり内地生産力増加は茲半年や一年の問題に非ず前途高見越は何人も異論なき所なれとも、又中には米國東部製品がオーバランダにて桑港に出て積荷せられ得る話もあり、現在の市價ならば格別の事なけれとも十二月頃の突飛相場を再現するに於ては此等の輸入續々行はれて高位を抑止すべく、今暫くは持合の域を脱せざるへし。

銑鐵 大正四年末一噸七十七八圓なりし東洋銑鐵は二月中旬八十一圓に騰貴し頗る活況を呈せり、元來東洋銑鐵は平時歐洲銑に壓せられ頭を擡げ得ざりしものなるも、船腹不足にて歐洲銑の輸入不可能となり米國よりの輸入も全然不能なるより今や東洋にて獨舞臺となれり、東洋銑の年産

額は印度のタター約二十七萬噸、ベンガル四萬噸、支那にて漢陽十五萬噸、本溪湖四萬噸、我國にては八幡の三十萬噸、釜石四萬噸、輪西二萬噸にして約八十五萬噸なるか、目下印度は運賃暴騰して一噸十五圓乃至二十圓なりしもの四十圓に達せる有様なれば輸入困難なり、漢陽は十五萬噸の産額に對し既に十六萬噸の先約を行へるか如く、我八幡製鐵所か五萬噸を約定せるに對し四萬噸に減少し呉れと交渉し來れりとの説ある位にて、多數は米國へ向け輸出せらるゝ有様なり、釜石は現在の四萬噸を七萬噸に増加の計畫あれともまた容易に實現せず、輪西は又日本製鋼所の原料に充てらるゝのみにて一般に供給する餘裕なし、斯る次第にて供給不足は見へ透きたる次第なれば前途容易に低落せざるべく、大阪銑鐵トラストの如きも昨年八萬噸の先約定を爲し得たるに反し、本年は僅に四萬噸を約定したるに止まるといふ。

銅 倫敦相場は月初以來昂騰又昂騰二十日頃迄上げ續きたり、則ち現物は一日の九十二磅一志三片より九日に於て百一磅十二志六片となり、爾後小波瀾を生しつゝ二十二日に百八磅二志六片となりて絶頂に對し、先物は一日の九十一磅一志六片より九日に於て百磅を抜き十九日には百五磅十七志六片となり、電氣銅は一日の百二十四磅より順次騰貴して十九日に百三十七磅の最高價を現はしたり、流石天井知らずの銅價も茲に至りて反動安を現し、現物先物共に

六七磅の亂高下をなしたる末三月三日に至り遂に立合停止となれり、是れ投機的賣買により戰時必要品の價格を亂す虞ある爲め、政府が實際の銅取扱商人に非ざるものゝ手出を禁し以て不當の騰貴を抑制したるに由るといふ、兎に角是れか爲め三月に入り現物先物共に十磅餘暴落したれとも電氣銅は頑として百三十六磅の價値を維持し前途尙騰貴せんとし、我國へも値を惜まず引合ひ來り先約物の如きは常に一磅内外の差を維持せるを見ても如何に先高氣配なるかを推測すへし、されは内地市場は一般に強氣を維持し、殊に露國方面への輸出、砲兵工廠の購買等によりて頗る好況を維持せり。

其他の金屬 亞鉛もまた好氣配を現はし倫敦相場は現物九十九磅先物九十磅にして十九日に至り各三磅方昂騰し内地相場も是れに連れて活躍せり、錫は二月末百斤百十二三圓にして月初に比すれば六七圓高なり、鉛も亦四五圓高の三十三圓、安質母尼も六圓高の七十八圓を唱へ一般に聯合國大決戰の準備として大買入あるへきを期待せると、船腹の缺乏、在荷の拂底等の爲め茲許低落の様子見えず我國にては一般に露國筋の大注文を豫期し手持筋は寧ろ賣約を見送れる有様なり。